様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　５ 月 ２３ 日現在

機関番号：３４３１６
研究種目：若手研究
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ１３２７８

研究課題名（和文）第二言語ライティング教授法と評価：ジャンル・アプローチと教授学習サイクル

研究課題名（英文）Second language writing teaching and assessment: genre approaches and the teaching-learning cycle.

研究代表者
長尾　明子（Nagao, Akiko）

龍谷大学・国際学部・准教授

研究者番号：６０５７０１２４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,100,000円

研究成果の概要（和文）：英語学習者が書いたアカデミックエッセーの中に含まれる2つのジャンルを対象に，SFL-GBAルーブリックにて評価しテキストを構成する3つの言語機能の理解がどのように変化するかを明らかした。事後エッセースコアーの結果，英語能力高群の方が，テキストの一貫性の理解が英語能力低群グループのそれと比較して高かった。また，英語学習者が書いた事前・中間・事後エッセーのTheme分析(ハイライト分析)結果から，zig-zag linear Theme patternとmultiple Theme/split Rhemeが検出されたことから，テキストの一貫性が高まっていることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
これまでのSFL-GBA 英語ライティング関連研究の多くは，教室内の文脈・タスク参加・学習者間インタラクションと，英語学習者のライティング能力の変化を切り離して考える傾向にある。SFL-GBA準拠ライティング教授法を通して，日本人大学生兼英語学習者の英語アカデミックライティング能力がどのように伸びたかを縦断的に研究したものが限定的である。本研究では，SFL-GBA準拠ライティング教授法を基盤に，教室内でのタスク中心指導法と教授学習サイクルを導入し，教授学習サイクルの各ステージの言語活動を通して英語学習者のライティング能力がどのように変化するかを縦断的に明らかにした。

研究成果の概要（英文）：This mixed-methods investigation examined the impact of implementing a genre-based approach to enhance descriptive report writing proficiency among Japanese university students studying English. The study spanned a 15-week course divided into three units. Within the framework of systemic functional linguistics, the GBA facilitated comprehensive analyses of essays authored by 23 first-year university students with varying degrees of English proficiency. Quantitative analysis involved assessing the overall quality of students' essays at three different time points, employing the SFL rubric. Qualitative inquiry employed clause structure annotations to identify and scrutinize the functional elements of the clauses, exploring three metafunctional perspectives: ideational, interpersonal, and textual aspects. The research revealed that highly proficient and experienced students displayed a greater understanding of the essay's structure and coherence.

研究分野：Applied Linguistics

キーワード：選択体系機能言語学　L2ライティング　ジャンルアプローチ　SFL-GBA準拠ライティング　アカデミックライティング　Higher Education　教授学習サイクル

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

第二言語ライティング指導の一つにジャンルアプローチ(GBA)指導法がある。これは，テキスト構成理解や適切な語彙選択の意識を学習者が高めるのに効果的とされる。しかしながら，近年，アジアの中でトップクラスの英語力を目指すという目標が掲げられている (文部科学省, 2014)。英語を「聞く」「話す」に加えて，「読む」「書く」も重視されており，日本の教育現場はさらなる英語教育の強化をするよう求めてられている。しかし，高校生の「書くこと」に関する得点が低いことや (文部科学省, 2017)，高校で使用している英語教科書に使用されている，及び大学入試で出題される英文テキストのジャンル(パターン)は限定されおり，必ずしもそのジャンルテキストが日常生活，留学先やアカデミック環境内で読んだり書いたりする英文テキストジャンルでは無いことが報告されている (Watanabe, 2016)。高校の英語授業等でも限定されている英文テキストジャンルの読み書きの練習ばかりで多様な英文ジャンルテキストに触れ合う機会が少ない (Watanabe, 2016)。それでは，どのようなライティング教授法が日本の英語教育環境には適しているのであろうか。本研究では，ジャンルベースアプローチ(genre-based approach; 以下GBA)と呼ばれる英語教授法を日本の英語教育に導入することを提案し，英語学習者の第二言語ライティング能力がクラスルームの中でどのように変化するかを縦断的に検証する。GBA には主に 3 種類の理論があるが，本研究では Systemic Functional Linguistics (選択体系機能言語学，以下 SFL)の理論を基盤にした GBA を導入する。これは，オーストラリアで発達した理論であり，人が言語を使用するのは，話しことばや書きことばで何かをするためであり，その目的に適した方法を選び，最も適した表現を選ぶとされる (Halliday & Matthiessen, 2014; 龍城, 2017)。SFL-GBA 準拠ライティング指導は，言語活動の「目的」に応じて構成や語彙・文法的資源を選択するトップダウン方式である。従来の日本の英語教育は，目標の語彙や文法資源を個別に学習するという点でボトムアップ方式である。しかし，SFL の特徴である，「目的」に応じた適切な語彙文法的資源を選択するためには，書き手や話し手は，各々の語彙や文法資源の特性を十分に理解している必要がある。日本の英語教育では既にこの点に重点を置いているため，すでに出来上がった土壌を活用することができる (西条, 2017; Nagao, 2018)。

しかしながら，SFLGBA L2 ライティング関連研究の多くは，教室内の文脈・タスク参加・学習者間インタラクションと学習者のライティング能力の変化を切り離して考えることが多い。さらに，学習者の英語ライティング能力が「どのように」伸びたかを縦断的に研究したものが少ない。そのため，新しい視点からのアプローチが必要である。申請者は，本研究のライティング実践授業に「GBA 教授学習サイクル」を導入する。この GBA 指導法は，1.状況設定，2.手本理解，3. 共同組立，4.自力組立，5.比較のステージに分類され，これを通して学習者は英文の書き方を段階的に理解することができる。本研究では，教室内でのタスク中心指導法やアクティブ・ラーニングを取り入れた各ステージの言語活動を通して学習者のライティング能力がどのように変化するか縦断的に明らかにする。本研究の促進は，小・中・高校での汎用性があるライティング教授法の開発を可能とし，「知識の英語」から「使える英語」へのシフトを期待することができる。

２．研究の目的

SFL-GBA 準拠ライティングの指導により，学習者はエッセーの構造理解と適切な語彙選択に関する意識を高めることは知られているが，SFL の枠組みを基盤とした評価方法により，学習者の英文ライティング能力の「何が」「どう変化したか」を追跡検証した研究は数が限られる。さらに，中学校・高等学校・移民・留学生を対象としたオーストラリア言語政策およびリテラシー教育に使用されている SFL-GBA 準拠ライティング教授法を日本の教育現状に適応させるためどのような工夫が必要であるかを調査した論文も限られる。そのために，本研究では，次のことを明らかにしていく。

研究課題 1：日本人大学生兼英語学習者が書いたアカデミックエッセーの中に含まれる 2 つのジャンルを対象に，SFL の要素が含まれたルーブリックを使用し評価した。そして，英語学習者のアカデミックエッセーを構成する 3 つの SFL 言語機能(例 ideational meaning(観念構成的意味)何が書かれているか；interpersonal meaning(対人的意味)読み手と書き手の関係性; textual meaning(テキスト形成的意味)テキストの一貫性)に関する理解がどのように変化したのかを明らかにした。

研究課題 2：教授学習サイクルの各ステージの言語活動は，英語学習者の英語アカデミックライティング能力をどのように高めているのかを明確化させる。さらに，これらのタスクに対する意識調査を実施した。

研究課題 3：汎用性の高い SFL-GBA 準拠ライティング教授法とは何かを追及するため，オーストラリア国内の中学生，高校生，留学生を対象とした SFL-GBA 準拠ライティング教授法に使用されている実践タスクやテキストはどのようなものがあるかを明確化した。

３．研究の方法

日本の私立大学の英語学習者兼 1 年生を対象に SFL-GBA 準拠ライティング教授法を取り入れ

た授業を一定の期間実施した。

研究課題 1: 英語学習者が書いた discussion and exposition genre アカデミックエッセーデータを前・中・後半の 3 回集めた。「前—中期の間」および「中—後期の間」に，以下の SFL-GBA 英語ライティング指導介入があった。英語学習者は 5 つのステージに分類された教授学習サイクルを経験することで段階的に目標エッセーの構成や適切な言語的特徴を理解し，最終的に目標ジャンルテキストに近いエッセーを書くことが可能となる。SFL-GBA の枠組みにより作成されたルーブリック評価法(Pessoa, Mitchell, & Miller, 2018)に基づき，評価者は学習者が書いたエッセーの言語的特徴(観念構成的機能・人間関係的機能・テキスト形成的機能)がどのように変化するかを点数化して評価した。申請者が作成したルーブリック評価表(Byrnes, Maxim & Norris, 2010; Kobayashi, 2017)を使用し，学習者が書いたエッセーのジャンル分析を実施した。その後，学習者(各グループ 2 名)に分析結果を提示し「なぜこの語彙を選択したか」や「タスク参加をして何が難しかったか」に関する半構造化インタビューを実施した。英語学習者の高低別にどのような発達や理解の違いがあるかを検証した。

研究課題 2：SFL-GBA 準拠ライティング教授法の核に「教授学習サイクル(Feez, 1998)」がある。これは以下の 5 つの言語学習過程から成る。1.状況設定: 目標テキストの目的と使用場面を明らかにする，2.手本理解: ジャンルテキストの構成や特徴を分析，3.共同組立: 教師に導かれて学習者が目標ジャンルテキストの文章を書く練習を行う,4.自力組立: 教師に見守られて自力で文章を書く，5.比較:学習内容を他のジャンルと使用場面に関連づけるである。英語学習者は 15 週間の SFL-GBA 準拠ライティング授業の中で，3 回この教授学習サイクルを経験しながら 3 つの異なるテキストを書く。目標ジャンルテキストに関する理解度に関する実態に関するアンケートデータを収集し分析する (Deng, Yang & Varaprasad, 2014)。さらに，半構造化インタビューを実施してどのタスクがどの程度英語アカデミックライティングを書く際に役にたったのか，その理由を明らかにした。

研究課題 3:これまで申請者が国内で構築してきた SFL-GBA 準拠ライティング教授法内容を改善し，多くの日本人英語教員が実践に使用でき汎用性のある指導案を構築する。オーストラリア国内で SFL-GBA 教授法を授業に導入している英語授業を観察した。授業実践者から使用するカリキュラム・シラバス・教材資料，評価システムデータを提供していただいた。オーストラリア国内の SFL-GBA 準拠ライティング授業実践に関する現状把握を調査した。

４．研究成果

研究課題 1：英語学習者が書いたアカデミックエッセーの中に含まれる 2 つのジャンルを対象に，SFL-GBA ルーブリックにて評価しテキストを構成する 3 つの言語機能の理解がどのように変化するかを明らかにした。事後エッセースコアーの結果，英語能力高群グループの方が，テキストの一貫性(textual meaning)の理解が英語能力低群グループのそれと比較して高かった (Nagao, 2022)。また，英語学習者が書いた事前・中間・事後エッセーの Theme 分析(ハイライト分析)結果から，zig-zag linear Theme pattern と multiple Theme/split Rheme が検出されたことから，テキストの一貫性が高まっていることが示唆された(Nagao, 2022)。しかし，実験群と統制群のエッセーデータを比較分析していないので，英語学習者のライティング能力の高まりを立証することはできなかった。

研究課題 2：教授学習サイクルの各ステージの言語活動は，英語学習者の英語アカデミックライティング能力をどのように高めているのかを明確化させる。さらに，これらのタスクに対する意識調査を実施した。事後アンケートの結果,「英語学習者が書いた事前・事後エッセーを比較し，分解および分析するタスク」が最も英語アカデミックエッセーを書くのに効果的であったと，英語能力が高いおよび低い学習者は答えた。このタスクは教授学習サイクルのステージ 2.テキストの構成や言語的特徴を理解するためにテキストを分解・分析するタスクで実施された。半構造化インタビューのテーマ分析の結果，とりわけ，英語能力低群の学習者は，自身が書いたエッセーを分解・分析することで，語末が ly 副詞の機能とターゲットジャンルエッセーの構成の両方の理解を高めることができたと述べた。教師とともに，エッセーの構造を分解・分析する作業を行うことで，英語学習者は言語の選択がどのように意味を形成するかについて理解したことが示唆される。

研究課題 3: 初めに，Australian Curriculum, Assessment and Reporting Authority (ACARA)指定のリテラシーに関するカリキュラムの情報を精査した。SFL-GBA を基盤とした英語ライティングカリキュラムやシラバスおよびルーブリックに関する情報を理解した。その後，これまでの日本文部科学省高等学校学習指導要領外国語編に書かれている到達目標，とりわけ英語ライティングの情報を精査した。そして，過去 30 年間の間に実施された・日本の大学生と高校生を対象に実施された英語ライティング実証研究論文内容を精査した。その結果，英語ライティングは周辺的タスクとして取り扱われていたが，近年，英語ライティングに関するジャンルの理解が学習目標に導入されていることがわかった。さらに，オーストラリアでの SFL-GBA 教授法が導入された英語の授業観察およびインタビューを通して，自身が実施している SFL-GBA 準拠ライティング教授法内容の修正と拡張を行なった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計6件（うち査読付論文　5件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　6件）

１．著者名 Akiko Nagao	４．巻 26
２．論文標題 A Genre-based Approach to Teaching Descriptive Report Writing to Japanese EFL University Students	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Teaching English as a Second or Foreign Language Journal, TESL-EJ	６．最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.55593/ej.26103a13	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Akiko Nagao	４．巻 24
２．論文標題 Recent Contributions of the Genre-Based Approach to Teaching Second Language Writing Research	５．発行年 2022年
３．雑誌名 JACETL Kansai Journal	６．最初と最後の頁 72-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Akiko Nagao	４．巻 13(6)
２．論文標題 Adopting an SFL Approach to Teaching L2 Writing through the Teaching Learning Cycle	５．発行年 2020年
３．雑誌名 English Language Teaching	６．最初と最後の頁 58-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5539/elt.v13n6p144	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Nagao Akiko	４．巻 16(3)
２．論文標題 Assessing the Development of English Learners’ Understanding of the Discussion Genre	５．発行年 2019年
３．雑誌名 The Journal of AsiaTEFL	６．最初と最後の頁 927, 943
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18823/asiatefl.2019.16.3.10.927	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Nagao Akiko	4．巻 4(6)
2．論文標題 The SFL genre-based approach to writing in EFL contexts	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Asian-Pacific Journal of Second and Foreign Language Education	6．最初と最後の頁 1,18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s40862-019-0069-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Nagao Akiko	4．巻 4(1)
2．論文標題 Can the EFL Classroom Be Considered a Community of Practice?	5．発行年 2019年
3．雑誌名 IAFOR Journal of Language Learning	6．最初と最後の頁 93, 108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.22492/ijll.4.1.06	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計23件（うち招待講演　1件／うち国際学会　21件）

1．発表者名 Akiko Nagao
2．発表標題 Integrating the Genre-Based Approach into Teaching Academic Writing in English as a Foreign Language
3．学会等名 57th RELC International Conference（国際学会）
4．発表年 2023年

1．発表者名 Akiko Nagao
2．発表標題 A Genre-Based Approach with Systemic Functional Linguistics Framework of L2 Writing for EFL University Students in Japan
3．学会等名 ALANZ/ALAA/ALTAANZ Applied Linguistics Conference 2022（国際学会）
4．発表年 2022年

１．発表者名 Akiko Nagao
２．発表標題 Case study: A Genre-Based Approach to L2 Writing Instruction in Higher Education
３．学会等名 The 7th International Conference on Appliable Linguistics Language and Education Martin Centre for Appliable Linguistics（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Akiko Nagao
２．発表標題 Teaching and Learning Cycle for the L2 writing classes of the First-Year University Students in Japan
３．学会等名 The 2022 Australian Systemic Functional Linguistics Association (ASFLA) Conference（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Akiko Nagao
２．発表標題 A Genre-Based Approach to Teach Japanese EFL University Students Descriptive Report-Genre Writing
３．学会等名 31st European systemic functional linguistics conference（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Akiko Nagao
２．発表標題 Case study: EFL learners’ writing experience through thematic analysis (Online Poster Session)
３．学会等名 Australian Linguistics Society (ALS) 2021（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Akiko Nagao
２．発表標題 Transforming from novice writers learning English as a Foreign Language into expressive essayists: A genre analysis of grammar, whole text, and discourse semantics
３．学会等名 19th AsiaTEFL International Conference 2021（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 長尾明子
２．発表標題 新人英語学習者がどのように英語ライティング経験者へ移行するか：テーマティック・アナリシス法に着目して
３．学会等名 第4回JAAL in JACET学術交流集会（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Akiko Nagao
２．発表標題 Reflecting EFL Learners’ Writing Experience Through the Thematic Analysis: Genre-based Approach of L2 Writing
３．学会等名 The 13th Asian Conference on Education (ACE2021) IAFOR（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Akiko Nagao
２．発表標題 Applying the Teaching and Learning Cycle in L2 writing classes in Japan: Case study of a genre-based approach to writing
３．学会等名 AILA 2021 (International Association of Applied Linguistics)（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Akiko Nagao
２．発表標題 Text-based Approach Of L2 Writing: The Information Report Genre
３．学会等名 HKCPD Hub International Conference 2021（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 上条武・長尾明子
２．発表標題 Academic Writing in EAP Research
３．学会等名 2020年度 JAAL in JACET学術交流集会;JACET;SIGポスター発表
４．発表年 2020年

１．発表者名 Akiko Nagao
２．発表標題 Scaffolding the Writing Development of the Exposition Genre: The Case of Novice Writers
３．学会等名 Asia TEFL 2020 Conference（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Akiko Nagao
２．発表標題 Genre Pedagogy: Literacy and Teaching L2 Writing
３．学会等名 JALT2020 International Conference（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Akiko Nagao
２．発表標題 Online Learning Communities in Higher Education
３．学会等名 Online Learning in 21st Century Global Education-Sharing Best Practices: An International Webinar, Nepal（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Akiko Nagao
２．発表標題 Text-based syllabus design for L2 writing: A genre-based approach
３．学会等名 The Asian Conference on Language (ACL) IAFOR（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 上條武・長尾明子・西条正樹
２．発表標題 アカデミックリテラシーの主要な枠組みとケーススタディ：今後の大学英語教育におけるEAP研究についての考察
３．学会等名 JACET Kansai Chapter 2019 Conference
４．発表年 2019年

１．発表者名 Akiko Nagao
２．発表標題 Teaching and Learning Cycle in Writing Classrooms
３．学会等名 JALT2019 Conference（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Akiko Nagao
２．発表標題 What is ‘the teaching and learning cycle (TLC)’?
３．学会等名 SSU3 (Situating Strategy Use 3) 2019（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Akiko Nagao
２．発表標題 Evaluating a genre-based approach to teaching EFL writing to undergraduate students in Japan
３．学会等名 KOTESOL2019（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Akiko Nagao
２．発表標題 A genre-based writing approach in EFL classrooms: From novice to experienced L2 writers
３．学会等名 The Australian Systemic Functional Linguistics Association Annual Conference 2019（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Akiko Nagao
２．発表標題 A case study of a Teaching and Learning Cycle in Language and Literacy Education
３．学会等名 14th University of Sydney TESOL Research Network Colloquium（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 上條武・長尾明子・西条正樹
２．発表標題 Academic Literacy (Poster Presentation)
３．学会等名 The 58th JACET International Convention（国際学会）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計1件

１．著者名 Akiko Nagao (Muller, T., Adamson, J., Herder, S., & Brown, S.,Eds)	４．発行年 2023年
２．出版社 International Teacher Development Institute	５．総ページ数 336
３．書名 Re-Envisioning EFL Education in Asia, "Chapter 2: Using the genre-based approach to raise university student awareness"	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	ミッカン　ピーター (Mickan Peter)	アデレード大学・School of Humanities・Visiting Research Fellow	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関